



人を中心としたオートメーション

# アズビル株式会社 証券コード: 6845(東証1部)

## 2017年度(2018年3月期)

### 第3四半期決算 補足説明資料

#### 目次

1. 2017年度(2018年3月期) 第3四半期累計期間  
連結業績
2. 2017年度(2018年3月期) 連結業績計画  
→ 2017年11月2日公表から修正なし
3. 株主の皆様への利益還元  
→ 期初計画から修正なし

2018年2月6日

- 1) 金額は表示単位未満切り捨てで記載しています。
- 2) 次の通りセグメント名称を略称で記載しています。
  - B A: ビルディングオートメーション
  - A A: アドバンスオートメーション
  - L A: ライフオートメーション
- 3) azbilグループの売上高は、例年、第1四半期連結会計期間には低く、第4四半期連結会計期間に最も高くなる傾向がある一方で、固定費は恒常的に発生します。そのため、相対的に第1四半期連結会計期間の利益は低く、第4四半期連結会計期間の利益は高くなる傾向があります。
- 4) 業績計画は、現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

**1. 2017年度(2018年3月期)  
第3四半期累計期間 連結業績**

# 1. 2017年度(2018年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 経営成績



〈対前年同期〉

- 受注高は、BA、AA、LA全事業において増加。
- 売上高は、LA事業が前年度における事業構造改革・事業見直しの影響で減収となったが、BA事業・AA事業が増加したことにより全体としても増加。
- 営業利益は、利益体質改善に向けた取組みの成果が顕著なAA事業を中心に、BA事業・LA事業も着実に改善し、全体として大きく増加。
- 経常利益並びに親会社株主に帰属する四半期純利益も、営業利益の改善を主因に大きく増加。

[単位: 億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
受注高	2,099	1,943	+155	+8.0
売上高	1,831	1,789	+41	+2.3
国内	1,505	1,476	+28	+1.9
海外	325	312	+13	+4.2
売上総利益	672	625	+47	+7.6
%	36.8	34.9	+1.8P	
販売費及び一般管理費	534	526	+8	+1.6
営業利益	138	99	+39	+39.5
%	7.6	5.5	+2.0P	
経常利益	144	105	+38	+36.7
税金等調整前四半期純利益	140	94	+45	+48.4
親会社株主に帰属する四半期純利益	94	66	+27	+41.2
%	5.1	3.7	+1.4P	

# 1. 2017年度(2018年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 セグメント別 - BA事業



〈対前年同期〉

- 受注高は、前年同期における大型の複数年契約※計上の反動影響等を受けたが、堅調な事業環境を背景に増加。
- 売上高は、前年度に強化した体制の下で着実に現場施工を進め、きめの細かいソリューション提案を積み重ねたことにより、国内の新設、既設、サービスそれぞれの分野が伸長、また、海外も増加し、BA事業全体として増加。
- セグメント利益は、費用負担の増加等があったが、利益改善の取組みの成果に加えて、前年同期には一時的な引当費用を計上していたことから増加。

[単位：億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
受注高	978	946	+31	+3.4
売上高	817	787	+30	+3.8
セグメント利益	59	47	+12	+26.2
%	7.3	6.0	+1.3P	

※ 大型の複数年契約(市場化テスト):  
当社では、契約期間が複数年にわたるサービス案件は、その複数年分の契約額を契約期間の初年度に一括で受注計上しております。前年同期においては、「市場化テスト」と呼ばれる官民競争入札制度を通して大型の複数年契約のサービス案件を受注計上いたしました。この「市場化テスト」は、入札により決定する元請企業が主体となり、提供するサービスに適した専門業者を用いて、対象となる建物に係わる様々なサービスを提供するものであります。また契約期間が3年から5年間と長期にわたるため、代表企業の受注動向には大きな影響が出る一方、単年度での利益の影響は限定的となります。

# 1. 2017年度(2018年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 セグメント別 - AA事業



〈対前年同期〉

- 前年度より取り組んでいる3つの事業単位※でのオペレーションを徹底し、成長戦略と事業収益力強化の施策を展開。国内外での顧客開拓が進展し、新製品等による新たなオートメーション領域の開拓も進む。
- 事業環境は、国内の幅広い市場で比較的堅調に推移しており、海外も半導体製造装置をはじめとするコントローラ、センサ関連の需要を取り込んで増加し、全般に良好な状況が継続。上記施策展開の成果もあり、受注高、売上高ともに着実に増加。
- セグメント利益は、事業収益力強化の取組みにより3つの事業単位それぞれにおいて利益体質が改善し、大きく増加。

[単位: 億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
受注高	771	700	+71	+10.2
売上高	702	685	+16	+2.4
セグメント利益	68	44	+23	+53.5
%	9.7	6.5	+3.2P	

※ 3つの事業単位:

CP事業 : コントロールプロダクツ事業(デジタル計装機器、マイクロスイッチ、センサ、燃焼制御機器等のコンポーネント事業)

IAP事業 : インダストリアルオートメーションプロダクツ事業(工業計器、発信器、自動調節弁等のコンポーネント事業)

SS事業 : ソリューション&サービス事業(制御システム、サービスマンテナンス事業)

# 1. 2017年度(2018年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 セグメント別 - LA事業



〈対前年同期〉

- 受注高は、事業領域の選択と集中を実施したライフサイエンスエンジニアリング(LSE)分野での回復を主因に、LA事業全体として大きく増加。
- 売上高は、ライフライン(ガス・水道メータ)分野等は増加したものの、LSE分野の前年度における受注減少を要因とした当期の売上高減少により、LA事業全体として減収。
- セグメント利益は、LSE分野での利益体質改善の成果を主因に増加。

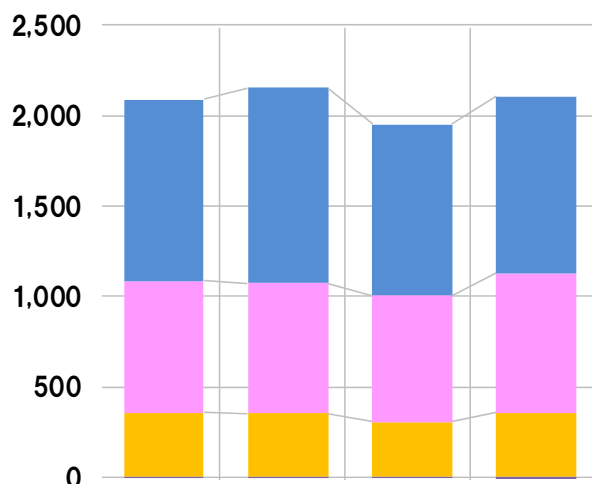
[単位: 億円]

	当期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
受注高	358	304	+53	+17.6
売上高	320	325	△5	△1.6
セグメント利益	9	7	+2	+37.6
%	3.0	2.2	+0.9P	

# 1. 2017年度(2018年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 [参考] セグメント別受注高推移

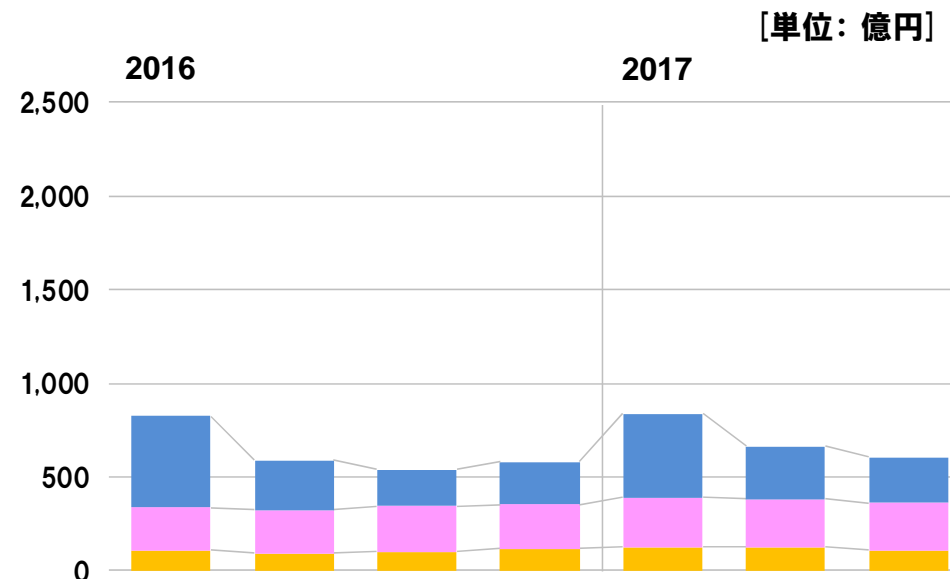


## ■ 同期比較



年度	2014 3Q累計	2015 3Q累計	2016 3Q累計	2017 3Q累計
■ BA事業	1,004 <sup>※1</sup>	1,080 <sup>※3</sup>	946 <sup>※4</sup>	978
■ AA事業	725	721	700	771
■ LA事業	359 <sup>※2</sup>	351	304	358
連結	2,082	2,146	1,943	2,099

## ■ 四半期推移



年度	2016				2017		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
■ BA事業	489	262	195	229	448	282	247
■ AA事業	224	232	243	236	265	254	251
■ LA事業	111	93	100	115	123	125	108
連結	822	584	536	579	834	659	604

※1 契約期間が複数年となる大型のサービス案件を複数受注し、その複数年分の契約額を一括計上しております。

※2 アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。  
なお、受注高については2014年度第3四半期までを連結しております。

※3 2015年度において、国内における複数年契約の受注計上範囲の見直しを実施。この見直しにより、複数年契約の受注計上額が一時的に大きく増加しております。

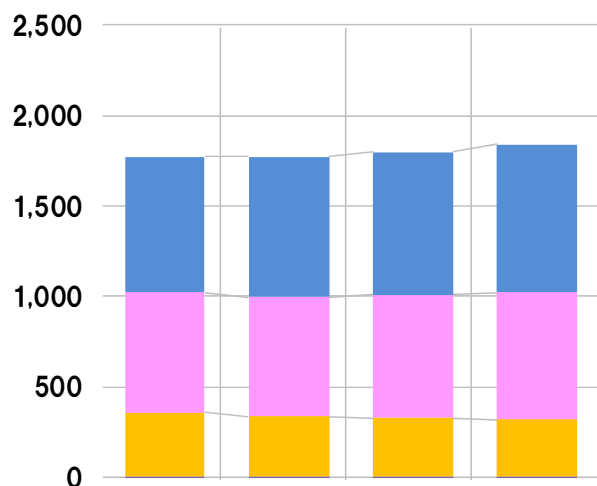
※4 中国の子会社である北京銀泰永輝智能科技有限公司の出資持分全てを譲渡(2016年12月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。  
これに伴い同社の受注残高を取り崩し、連結受注高より控除しております。



# 1. 2017年度(2018年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 [参考] セグメント別売上高推移



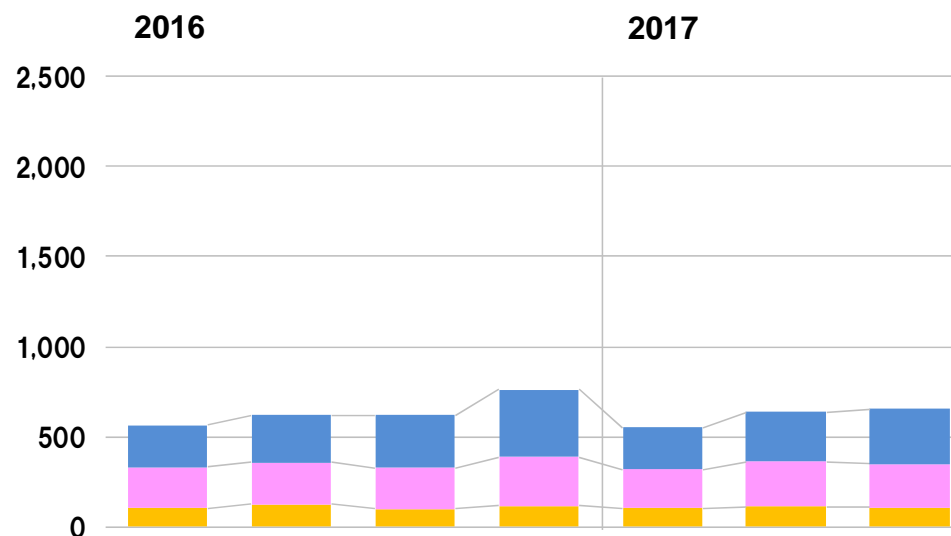
## ■ 同期比較



年度	2014 3Q累計	2015 3Q累計	2016 3Q累計	2017 3Q累計
■ BA事業	749	776	787 <sup>※2</sup>	817
■ AA事業	664	660	685	702
■ LA事業	356 <sup>※1</sup>	335	325	320
連結	1,765	1,764	1,789	1,831

## ■ 四半期推移

[単位: 億円]



年度	2016				2017		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
■ BA事業	233	260	292	377	233	275	308
■ AA事業	226	233	224	269	215	247	239
■ LA事業	103	123	99	115	101	112	106
連結	561	614	613	758	547	630	652

※1 アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。

なお、売上高については2014年度第3四半期までを連結しております。

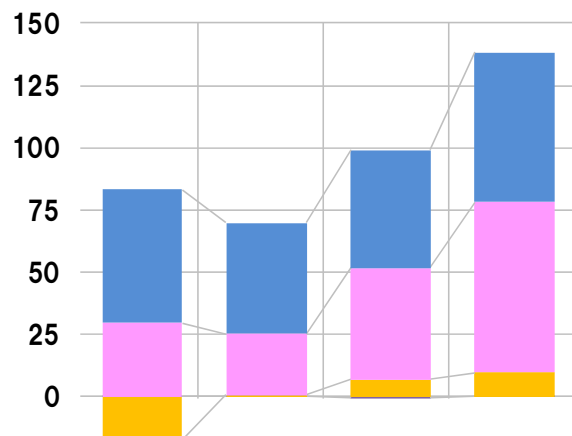
※2 中国の子会社である北京銀泰永輝智能科技有限公司の出資持分全てを譲渡(2016年12月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。

なお、売上高については2016年度第3四半期までを連結しております。

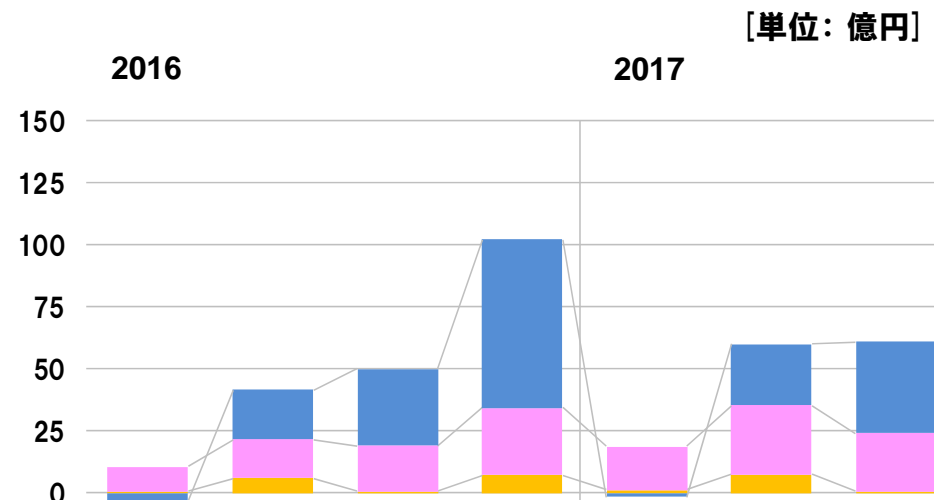
# 1. 2017年度(2018年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 [参考] セグメント利益(営業利益)推移



## ■ 同期比較



## ■ 四半期推移



年度	2014 3Q累計	2015 3Q累計	2016 3Q累計	2017 3Q累計
BA事業	53	44	47 <sup>※2</sup>	59
AA事業	29	24	44	68
LA事業	△17 <sup>※1</sup>	0	7	9
連結	65	69	99	138

年度	2016 1Q	2016 2Q	2016 3Q	2016 4Q	2017 1Q	2017 2Q	2017 3Q
BA事業	△3	19	30	67	△1	24	36
AA事業	10	15	18	27	17	27	23
LA事業	0	5	0	7	1	7	0
連結	7	41	49	102	17	60	60

- ※1 アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。  
なお、損益については2014年度第3四半期までを連結しております。
- ※2 中国の子会社である北京銀泰永輝智能科技有限公司の出資持分全てを譲渡(2016年12月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。  
なお、損益については2016年度第3四半期までを連結しております。

# 1. 2017年度(2018年3月期) 第3四半期累計期間 連結業績 海外エリア別売上高

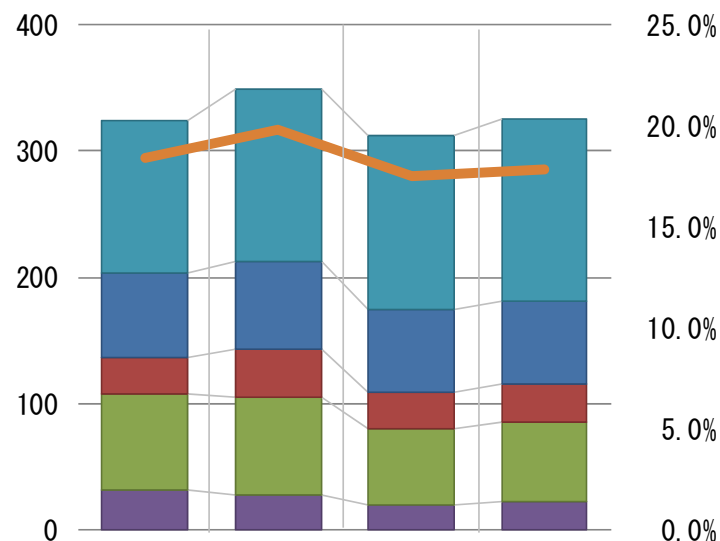


[単位: 億円]

<対前年同期>

海外売上高は、アジアを中心に全エリアで増加。

- アジアでは、AA事業の装置メーカー向け販売と、ローカル案件獲得が進むBA事業が伸長し、全体で増収。
- 中国は、BA事業が子会社譲渡による影響で減収したが、AA事業が伸長し、全体として増収。
- 北米は、AA事業の装置メーカー向け販売が好調で増収。
- 欧州は、AA事業での増加を主因に増収。



年度	2014 3Q累計	2015 3Q累計	2016 3Q累計	2017 3Q累計
アジア	121	137	138	144
中国	67	69	64	65
北米	28	37	29	31
欧州	75	77	60	62
その他	31	27	19	22
連結	324	349	312	325

(ご参考)

海外売上高%	18.4%	19.8%	17.5%	17.8%
期中平均レート(USD)	102.94	120.99	108.59	111.89
期中平均レート(EUR)	139.50	134.75	121.10	124.58

※ 海外売上高は、現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含んでいません。  
 ※ 現地法人の事業年度は主に12月31日を期末日とする年度を採用しています。

# 1. 2017年度(2018年3月期)第3四半期累計期間 連結業績 財政状態



- 資産 受注増に伴うたな卸資産増加に加えて、株式時価上昇による投資有価証券の増加(投資その他の資産)があったが、売上債権並びに現金及び預金の減少により、前年度末比23億円の減少。
- 負債 主に賞与引当金、未払法人税等が減少し、前年度末比64億円の減少。
- 純資産 配当金の支払と自己株式の取得による減少があったが、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上と投資有価証券の時価上昇によるその他有価証券評価差額金の増加により、全体として前年度末比41億円の増加。

	当期末 (A)	前年度末 (B)	対前年度末 増減 (A) - (B)		当期末 (A)	前年度末 (B)	対前年度末 増減 (A) - (B)
<b>流動資産</b>	<b>1,941</b>	<b>2,041</b>	<b>△ 99</b>	<b>負債</b>	<b>910</b>	<b>975</b>	<b>△ 64</b>
現金及び預金	478	539	△ 61	流動負債	765	840	△ 75
受取手形及び売掛金	841	885	△ 43	仕入債務	381	404	△ 23
棚卸資産	261	221	+39	短期借入金	102	106	△ 3
その他	360	394	△ 34	その他	281	329	△ 48
<b>固定資産</b>	<b>668</b>	<b>592</b>	<b>+76</b>	固定負債	145	134	+10
有形固定資産	249	232	+16	長期借入金	5	5	+0
無形固定資産	53	53	△ 0	その他	140	129	+10
投資その他の資産	366	305	+60	<b>純資産</b>	<b>1,698</b>	<b>1,657</b>	<b>+41</b>
				株主資本	1,544	1,546	△ 1
				資本金	105	105	-
				資本剰余金	116	123	△ 6
				利益剰余金	1,392	1,364	+27
				自己株式	△ 69	△ 46	△ 23
				その他の包括利益累計額	134	91	+42
				非支配株主持分	19	19	+0
<b>資産合計</b>	<b>2,609</b>	<b>2,633</b>	<b>△ 23</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>2,609</b>	<b>2,633</b>	<b>△ 23</b>

(ご参考) 自己資本比率: 当期末 64.4%、前年度末 62.2%

## **2. 2017年度(2018年3月期) 連結業績計画**

→2017年11月2日公表から修正なし

## 2. 2017年度(2018年3月期) 連結業績計画 業績計画



- 2017年度通期業績計画については、2017年11月2日発表の内容を据え置く。
- 事業環境は、期初想定の範囲で推移しており、各事業施策も着実に進捗中。持続的成長に向けての商品開発、海外事業基盤の整備に取り組みながら、前年度比で増収、増益を目指す。

[単位: 億円]

	当年度		前年度	対前年度	
	3Q累計	通期計画 (2017/11/2)		増減	増減%
売上高	1,831	2,600	2,548	+51	+2.0
営業利益	138	235	201	+33	+16.7
%	7.6	9.0	7.9	+1.1P	
経常利益	144	235	204	+30	+14.8
親会社株主に帰属する当期純利益	94	165	131	+33	+25.4
%	5.1	6.3	5.2	+1.2P	

## 2. 2017年度(2018年3月期) 連結業績計画 セグメント別計画

- BA事業： 堅調な事業環境を背景に、前年度に整備した体制の下で着実に現場施工を進め、前年度比での利益拡大を実現する。
- AA事業： 3つの事業単位によるオペレーションの下、成長戦略と収益力強化を推し進め、事業伸長と利益体質改善を継続する。
- LA事業： 引き続き、利益体質の改善、定着に注力する。

[単位：億円]

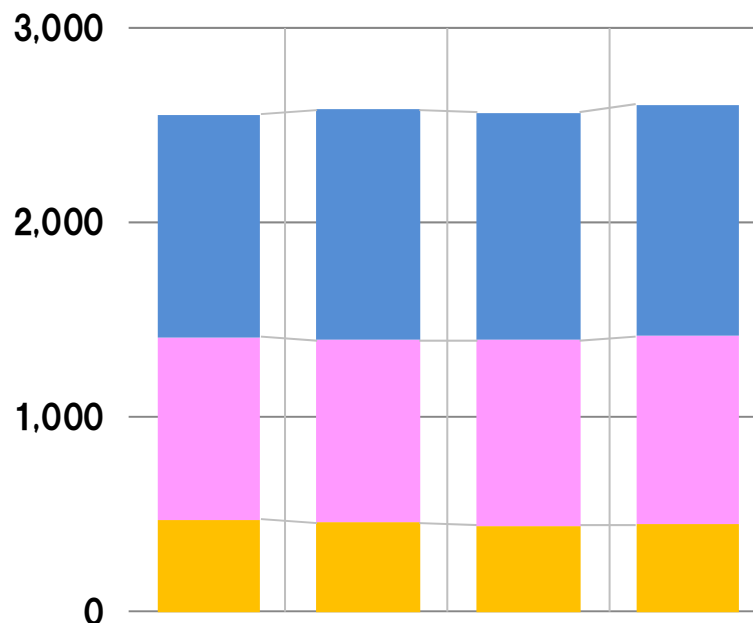
	当年度		前年度	対前年度		
	3Q累計	通期計画		増減	増減%	
		(2017/11/2)				
■ BA事業	売上高	817	1,190	1,164	+25	+2.2
	セグメント利益	59	125	115	+9	+8.6
	%	7.3	10.5	9.9	+0.6P	
■ AA事業	売上高	702	970	954	+15	+1.6
	セグメント利益	68	92	72	+19	+27.7
	%	9.7	9.5	7.5	+1.9P	
■ LA事業	売上高	320	445	441	+3	+0.9
	セグメント利益	9	18	14	+3	+26.7
	%	3.0	4.0	3.2	+0.8P	
連結	売上高	1,831	2,600	2,548	+51	+2.0
	営業利益	138	235	201	+33	+16.7
	%	7.6	9.0	7.9	+1.1P	

※ 中期経営計画(2017~2019年度)作成にあたり、主に事業規模・人員数を基準とした各セグメントにおける本社費負担額の変更を実施しております。これにより、BA事業で負担が増加し、AA事業で減少しています。

## 2. 2017年度(2018年3月期) 連結業績計画 [参考] セグメント別売上高 推移



[単位: 億円]



年度	2014	2015	2016	2017 (計画)
■ BA事業	1,143	1,188	1,164 <sup>※2</sup>	1,190
■ AA事業	936	935	954	970
■ LA事業	473 <sup>※1</sup>	456	441	445
連結	2,544	2,568	2,548	2,600

※1 アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。

なお、売上高については2014年度第3四半期までを連結しております。

※2 中国の子会社である北京銀泰永輝智能科技有限公司の出資持分全てを譲渡(2016年12月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。

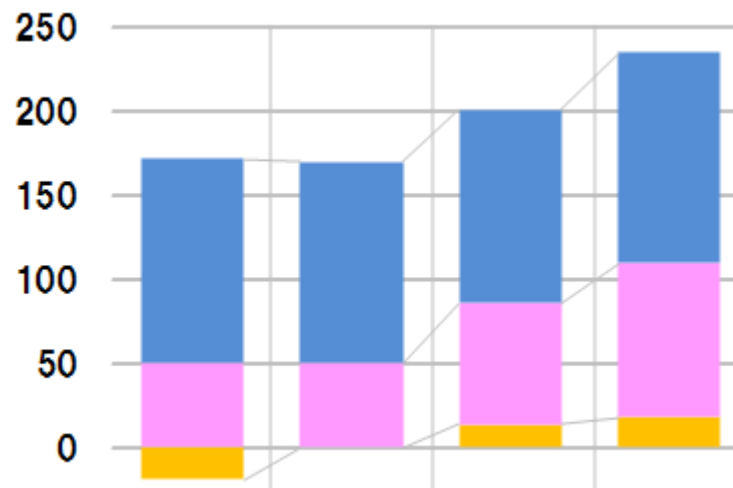
なお、売上高については2016年度第3四半期までを連結しております。



## 2. 2017年度(2018年3月期) 連結業績計画 [参考] セグメント利益(営業利益) 推移



[単位: 億円]



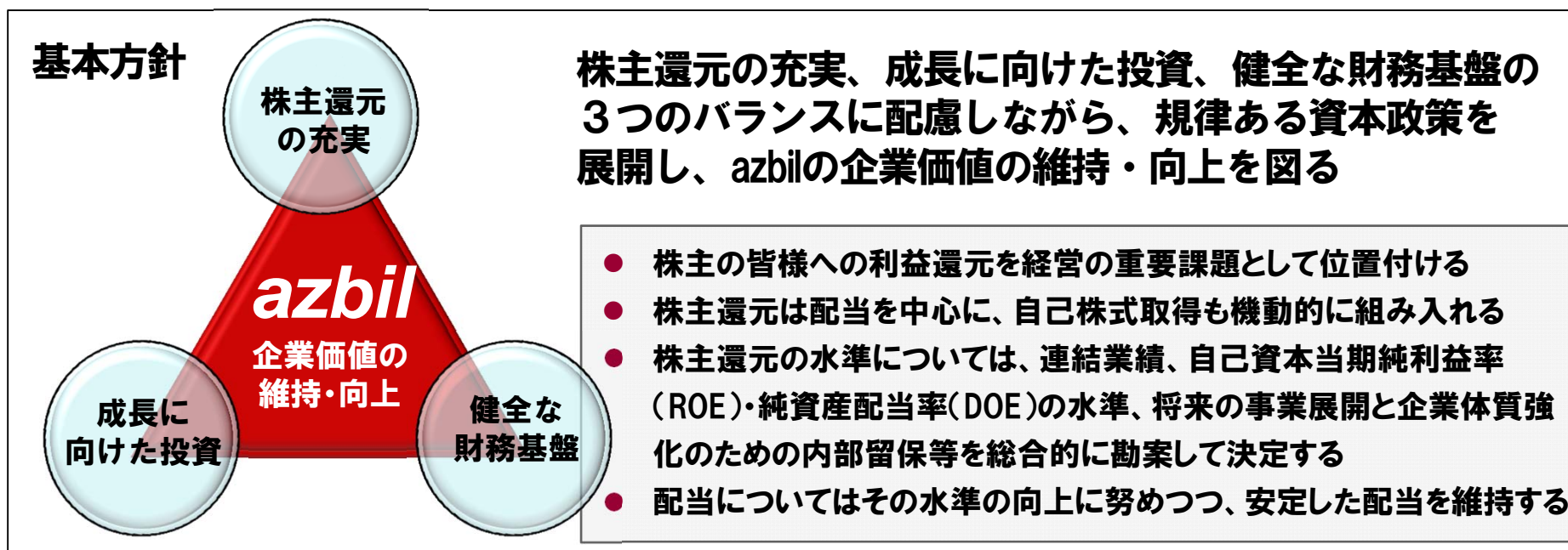
年度	2014	2015	2016	2017 (計画)
■ BA事業	122	120	115 <sup>※2</sup>	125
■ AA事業	50	50	72	92
■ LA事業	△ 19 <sup>※1</sup>	0	14	18
連結	153	171	201	235

※1 アズビルあんしんケアサポート株式会社の全株式を総合警備保障株式会社へ譲渡(2015年2月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。  
なお、損益については2014年度第3四半期までを連結しております。

※2 中国の子会社である北京銀泰永輝智能科技有限公司の出資持分全てを譲渡(2016年12月)し、同社を連結の範囲から除外いたしました。  
なお、損益については2016年度第3四半期までを連結しております。

### 3. 株主の皆様への利益還元

→期初計画から修正なし



### 3. 株主の皆様への利益還元 配当金



2017年度 配当計画 → 期初計画から修正なし

**配当金（年間）：1株当たり82円**

（前年度の記念配当5円を普通配当に組み入れた上で、さらに普通配当5円増配）

これまでの事業構造改革、収益体質強化策の進捗を踏まえ、現中期経営計画のもと安定的・持続的な成長が見込まれることから、前年度の記念配当(5円)を普通配当に組み入れた上で、さらに5円増配を計画。

#### ■ 2017年度(中間配当/期末配当)計画

	2016年度		2017年度	
	中間	期末	中間	期末
1株当たり配当金 [円]	37.0	40.0	41.0	41.0(計画)
配当性向	42.9%		36.0%	
純資産配当率 (DOE)	3.5%		3.6%	

(ご参考) 2017年12月末時点 配当利回り 1.7%

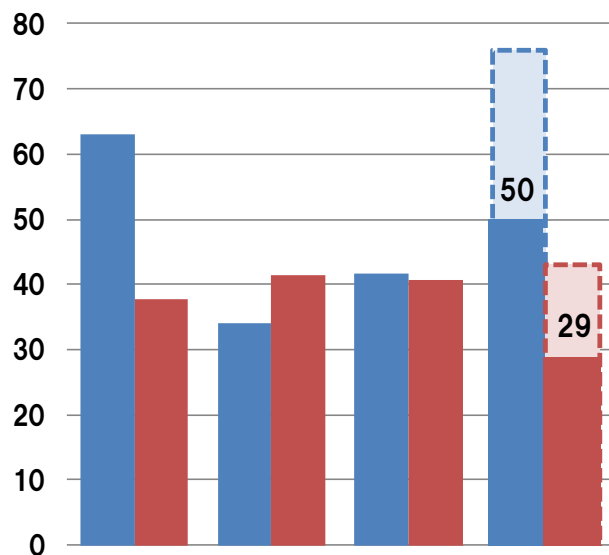
## 補足資料

# 設備投資・減価償却費／研究開発費



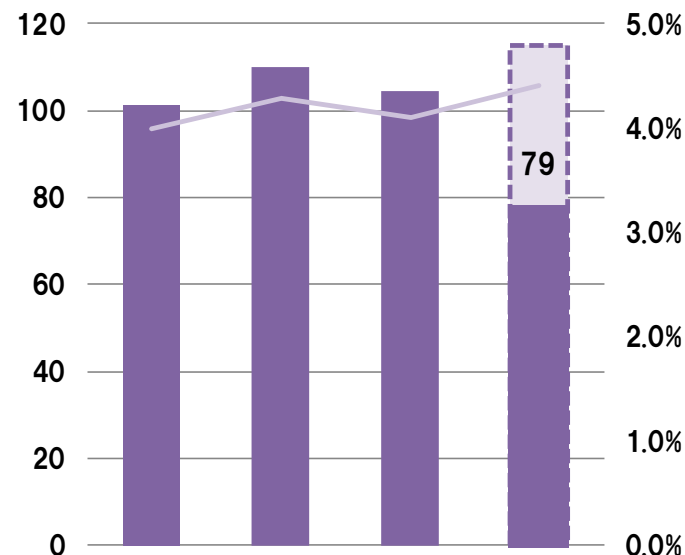
[単位：億円]

■ 設備投資・減価償却費



年度	2014※1	2015	2016	2017※2 (計画)
■ 設備投資	63	34	41	76
■ 減価償却費	37	41	40	43

■ 研究開発費・研究開発費率



年度	2014※3	2015※3	2016	2017※4 (計画)
■ 研究開発費	101	110	104	115
— 研究開発費率	4.0%	4.3%	4.1%	4.4%

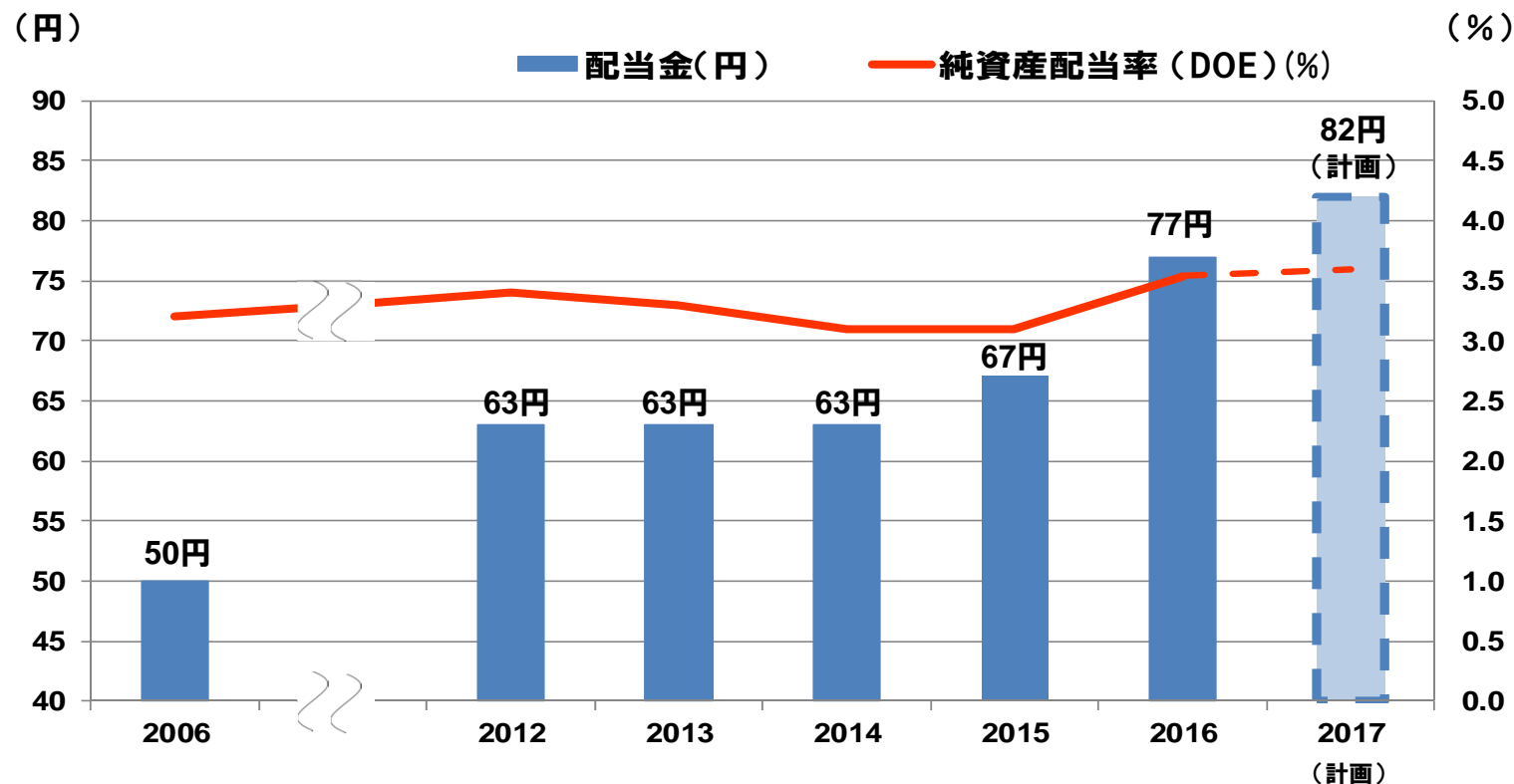
※1 2015年5月に稼働した基幹情報システムの更新に係る投資と、海外における生産設備への投資が発生しております。

※2 2017年度から、湘南・伊勢原工場の統廃合、藤沢テクノセンター研究・開発拠点整備に係る投資を計画しております。

※3 主に次世代BAシステム製品の開発のため研究開発費が増加しております。

※4 技術革新(IoT、ビッグデータ、AI等)に対応した製品開発関連費用による増加を計画しております。

# 補足資料 株主還元の推移



配当金(円)	50	~	63	63	63	67	77	82
純資産配当率(DOE)(%)	3.2	~	3.4	3.3	3.1	3.1	3.5	3.6

自己株式取得(万株)		~				60		71*
------------	--	---	--	--	--	----	--	-----

※ 2017年6月23日に自己株式取得を完了。

## 「株式給付制度」 導入に伴う 自己株式処分

- 株主価値を共有し、企業価値向上の社員インセンティブを高めることを目指す「株式給付制度」の導入に伴い自己株式(100万株)を第三者割当処分
- 第三者割当実施日:2017年5月29日

## 自己株式消却

- 「株式給付制度」導入に伴う第三者割当処分後の残りの自己株式(86万5千659株)を全株式消却
- 消却実施日:2017年5月31日

## 自己株式取得

- 資本効率の向上を図るとともに、今後の業績の見通しを反映して、株主の皆様への一層の利益還元と企業環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とすべく自己株式取得(71万4千300株約30億円)を実施
- 取得期間:2017年6月2日～6月23日(受渡日基準)

---

**azbilグループは、  
「人を中心としたオートメーション」で、  
人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、  
地球環境に貢献します。**

---